

令和 6 年度河川環境検討連絡会 議事概要

日時：令和 7 年 2 月 25 日（火曜日）午後 3 時～午後 4 時

場所：岐阜県庁 3 階 303 会議室 ウェブ併用（ZOOM）

【出席者】（敬称略）

- ・ NPO 法人 PW 安全協会中部地方本部 事務局長 安藤 秀明
- ・ 岐阜県警察本部地域課 課長補佐 陶山 慎二郎
- ・ 岐阜県警察本部地域課 係長 大洞 彰大
- ・ NPO 法人長良川環境レンジャー協会 理事長 坂井田 節
- ・ NPO 法人エヌエスネット 理事長 北川 健司
- ・ 国土交通省中部地方整備局木曽川上流河川事務所 管理課長 大友 逸斗
- ・（幹事） 岐阜県県土整備部河川課 管理調整監 長谷川 ひろみ
- ・（事務局） 岐阜県県土整備部河川課 水政係長 河合 文雄、主事 林 光輝

【オブザーバー】

- ・ 里川・水産振興課 技師 神子高 弘彪
- ・ 岐阜土木事務所 係長 加納 広隆
- ・ 大垣土木事務所 主事 松本 健汰
- ・ 揖斐土木事務所 主事 高橋 壮
- ・ 美濃土木事務所 主査 石木 宏和
- ・ 郡上土木事務所 主事 山中 大輝
- ・ 可茂土木事務所 主査 資延 洋一
- ・ 多治見土木事務所 主事 大西 將史
- ・ 恵那土木事務所 主任 竹内 健志郎
- ・ 下呂土木事務所 主事 日置 健太
- ・ 高山土木事務所 主査 政井 久範
- ・ 古川土木事務所 係長 岩佐 浩志

概要

<次第 1 開会>

【岐阜県河川課】

- 本連絡会は、岐阜県内の一級河川において、河川環境に配慮しつつ適正かつ多様な河川利用を推進するため、河川利用者による情報交換等を行うなかで、河川がもつ課題等を把握し施策に反映していくとともに、各河川利用者が協働で啓発等に取り組むことを目的として、平成17年度に設置し、連携して取り組んでいるところ。
- 令和6年の県内一級河川における水難事故発生者数は67名で、そのうち、28名の方が亡くなられており、過去20年で最多となった。引き続き、会員の皆様と協働して、河川環境や水難事故防止の啓発活動等に取り組んでいきたいと考える。
- 本日は、それぞれの立場から意見をいただき、よりよい河川利用につなげる議論にできれば幸いである。

<次第 2 各団体からの活動報告>

【NPO法人PW安全協会中部地方本部】

- 7月21日と9月8日に安全パトロールを実施した。
- 7月27日と7月28日にビーチクリーン活動を実施した。

【岐阜県警察本部】

- 岐阜県河川課や海上保安庁と連携し、愛知県内の大型店舗での広報を実施した。
- 長良川等の河川利用者の多い場所での広報を実施した。
- ドローンを使用し多言語での広報を実施した。
- 夏休み前に小中学生に対する広報を行った。
- ラジオやケーブルテレビ、交番・駐在所でのミニ広報紙による広報活動を行った。
- Y o u T u b e や X 等 S N S を活用した広報を推進した。
- 在留外国人に対する講話を行った。

【NPO法人長良川環境レンジャー協会】

- 4月の第3土曜日から10月の第3日曜日までの毎週土曜日・日曜日・祝日に清掃活動を実施した。併せて、河川利用者にゴミの持ち帰りやライフジャケットの着用を呼びかけた。

【NPO法人エヌエスネット】

- 子どもたちと一緒に川を下りながら川の危険箇所を教えた。
- 美濃市の委託を受けて、夏休み期間中美濃橋付近で、ライフジャケットの貸し出しを行った。
- 令和 7 年度は川に学ぶ体験活動全国大会木曽川として、新丸山ダムや河川環境楽園の見学、ラフティング、E ボート等の体験活動を実施する。

【国土交通省中部地方整備局木曽川上流河川事務所】

- 木曽川大堰上流水面利用協議会（幹事会）を開催し、安全利用・事故防止に関する情報や各機関の活動実績、活動予定の共有を行った。
- 7 月 2 1 日と 9 月 8 日に羽島市と稲沢市で安全利用に関するパトロール及び啓発活動に関係機関と合同で実施した。
- 8 月 6 日に岐阜県や下呂市と合同で下呂市の道の駅で水難事故防止の広報活動を実施した。
- 4 月 2 1 日に「第 1 回長良川を美しくしよう運動」を実施した。
- 8 月 1 1 日に「第 2 回ぎふ長良川花火大会清掃活動運動」を実施した。
- 1 0 月 2 7 日に「川と海のクリーン大作戦」を実施した。
- 水難事故マップやごみマップを作成し、ホームページに掲載した。

【岐阜県河川課】

- 「水難事故防止啓発キャンペーン」として、ゴールデンウィーク期間中（5 月 3 日）と夏休み期間中（8 月 2 日）に長良川的美濃橋（美濃市）と鮎之瀬橋（関市）付近において、美濃土木事務所、関市、美濃市とともにチラシを配布した。
- 「川と海の安全推進活動」として、夏休み期間中にイオンモール名古屋茶屋（7 月 2 6 日）とイオンモール Nagoya Noritake Garden（8 月 6 日）で関係機関と合同でチラシの配布やポスターの掲示を行った。
- 岐阜県河川課 X を活用し、水難事故防止を呼びかけた。
- 夏休み前に県内全ての小・中・高等学校・特別支援学校・専修学校・大学等にチラシのデータを提供し、児童・生徒・学生への配付を呼びかけた。
- コンビニエンスストア 7 8 店舗（ファミリーマート・ローソン）にご協力いただき、夏季期間中ポスターを店舗内に掲示した。
- 「水難事故防止啓発キャンペーン」実施時に、水難事故防止チラシ配布とあわせて、ゴミの持ち帰りを呼びかけた。
- 4 月 2 0 日(土)及び 1 0 月 2 0 日(日)に、NPO 法人長良川環境レンジャー協会が主催する長良川環境巡視活動（河原活動）に参加し、長良川河川敷での河川の清掃活動を行った。

<次第3 岐阜県内の水難事故の状況>

【岐阜県警察本部】

- 令和6年の水難事故発生件数は68件、事故者数は78人であり、事故者のうち37人が亡くなった。
- 昨年に比べて発生件数は11件、事故者数は12人、死亡者数は9人増加している。
令和元年以降コロナ禍を挟んでいるが増加傾向にある。
- 月別の発生状況について、8月が一番多く発生件数は15件、事故者数は17人であった。特に6月から9月にかけて事故が多く発生した。残暑が厳しく9月10月にも河川利用者がいたことから事故者数が増加したと考えられる。
- 場所別の発生状況について、河川別では多い順に長良川で発生件数が16件、事故者数が18人、板取川で発生件数が13件、事故者数が15人、飛騨川で発生件数が8件、事故者数が12人である。
長良川では魚釣り中・遊泳中の事故が、板取川では遊泳中の事故が、飛騨川では釣り中の事故が特に多い。
市町村別では、多い順に美濃市で発生件数が15件、事故者数が17人、関市で発生件数が7件、事故者数が9人、高山市で発生件数が7件、事故者数が7人である。
- 態様別について、多い順に魚釣り・魚とり中の発生件数が24件、事故者数が25人、水泳中の発生件数が11件、事故者数が11人、水遊び中の発生件数が8件、事故者数が12人である。例年より魚釣り・魚とり中の事故が多く、特に9月・10月に魚釣り・魚とり中の事故が多い。
- 年齢別について、65歳以上が最多で事故者数は29人、次いで20代が多く事故者数は18人。
- 居住者別について、事故者の内訳は県内居住者44人、県外居住者34人である。県外居住者のうち25人が愛知県在住者である。
- 外国人の水難事故者について、発生件数は9件、事故者数は12人であり事故者のうち7人が亡くなった。
昨年に比べて発生件数は3件、事故者数は4人、死亡者数は5人増加している。

【岐阜県河川課】

- 令和6年の岐阜県内の一級河川での水難事故の死亡者数は、28人と近年で最多人数であった。特に河川別では、長良川での水難事故が多く、18人の方が事故に遭い、うち9人が亡くなった。また板取川でも、15人の方が事故に遭い、3人が亡くなっている。
- 水難事故の行為年齢別発生件数としては、若年層では水遊びや遊泳、ボート遊びでの水難事故が多く、高齢層では、魚釣りや魚とりの方が多数を占めた。

<次第4 議事>

- (1) 河川利用者にとって利用しやすく、一方環境保全団体にとって活動しやすい河川敷とはどうあるべきか

【主な意見】

○美濃市には水洗トイレがあるが藍川橋、千鳥橋、雄総河原、小紅の渡しにはトイレがない。過去には河川利用者が民家でトイレを借りて苦情があったこともある。水洗トイレを設置してほしい。

- (2) 効果的な水難事故防止対策について

【主な意見】

- ライフジャケットを付けていない人には、ライフジャケットの着用を呼びかけ、ライフジャケットを既につけている人には、大げさくらいに褒めることでライフジャケットの着用意識を高めている。
- ライフジャケットの貸し出し所を河川の近くに設けて、誰でもいつでも借りられるようにするのはどうか。また、どこで借りれるかを広報するのも有効ではないか。
- 水上オートバイの販売店等を通じて啓発を継続する。
- 岐阜市など川の近くに住んでいる人は川の危険性を意識している。それ以外の地域の人への啓発にも力を入れてはどうか。
- 河川巡視時の声掛けを継続する。
- 魚釣り・魚とり中の事故者数は25名であるが、25名全員がライフジャケットを着用していなかった。鑑札を発行する段階でライフジャケットの着用を促すのはどうか。
- 河川財団でフィッシングベストを作成中である。

<閉会>

【岐阜県河川課】

- 本日は活発にご意見いただきありがとうございました。。
- 今後とも、水難事故防止及び河川環境保全のため、皆様と連携、協力して取り組んでまいりたいと考えておりますので、引き続きよろしく願いいたします。
- 特に、水難事故防止の啓発活動については、啓発活動や啓発グッズの配布を来年度も行っていきますので、ご協力いただきますよう、よろしくお願いいたします。

以上